パラダイムシフトをめざして

函館市医師会
五稜郭メンタルクリニック
多田　直人

開業20周年になる令和２年５月、（おそらく他の多くの医療機関と同様に）COVID-19の影響で祝賀ムードはもちろん一切なく、20周年に気づきもせずCOVID-19をいかに回避しつつ患者減を食い止めるかに必死でした。今年69歳になった「老医」が80歳を過ぎても外来診療を続けるため〈無床化して自分への負担を軽減しなければ〉と考え、３年前の５月に病棟（全個室の19床）を閉鎖し、プライベートタイムを充実すべく我慢してきた海外旅行なども計画し、パスポートを取得し、さて令和２年５月の連休には夫婦で優雅にイタリア周遊の地中海クルーズ（シャンパーニュ飲み放題）を、と決めたのが２年前。

さっそく高い予約金を支払い、令和２年に入りイタリア研究を始めた矢先（キャンセルしても予約金がもう戻らない時期）に、あれよあれよという間にクルーズ船で、北海道で、日本中で、そしてイタリアでこの騒ぎです。〈クリニックを守り、20人以上いるスタッフの生活を死守するために、身銭を切ってキャンセルするしかないか〉と悶々とした日々を過ごすうちに旅行そのものが催行中止となり、高い予約金は全額払い戻されてホッとしました（また、有床のまま30人以上のスタッフを抱えこの事態になっていたらと考えると、病棟閉鎖は結果的には良いタイミングでした）。しかし、当分はパスポートも無用の長物と化し、代わりに九州のドライブ旅行を計画したのに道外に出られなくなり、道内旅行も自粛となり、悪あがきの旅行計画は次々と潰え去り、自宅でTV三昧（アマゾンプライムが役に立ちました）のゴールデンウィークになりました。

その間感染症の最前線で大変なご苦労をされていた医療関係者の方たちからすると、お気楽な精神科医のたわごとでしょう。実際に自分でもそう思います。亡くなられた方も大勢いるわけですから。

ところで、令和元年８月に私の首と肩に異変が生じました。すぐ近くで整形外科を開業されていた大学の先輩に診ていただくと頸椎ヘルニアかも、とのこと。激しい痛みで十分な睡眠がとれず、（幸い非利き腕の痛みでしたから）仕事は何とか続けられましたが、カラーを巻いて診療する姿に心配してくれるスタッフ、そして患者さんたちの不安そうな表情に〈自分がしっかりしなければダメだな〉と自分の尻にムチ打ち頑張って整骨院にも頻繁に通いカイロプラクティックの施術を受けました。自分の首の奥あたりから聞こえてくる（脊髄がねじ切られるような）不気味な音にも耐え２ヵ月ほどすると、諦めていた手指の感覚が元に戻り始めましたが、先生の言いつけどおり“メンテ”のために通い続けました。しかし、COVID-19が怖くなり４月から整骨院通いを中止しています。幸いその後知覚マヒと痛みのぶり返しはありません。

このとき、私は一大決心をしました。自分の本を出版しようと決めたのです。精神疾患の「操作的診断基準」に対する疑問が開業後にますます強まり、独自の「精神医学大系」ともいえる考えを構想し始めたのが15年以上前。〈精神科医だから、どうせ自分の専門科の疾患にかかった挙句の妄想体系だろう〉とお考えの方も大勢いらっしゃると思いますが、いえいえ大変まじめに考えた精神医学大系です（何の説得力もない言いわけですが）。頸椎ヘルニアが（そしてCOVID-19が）出版するぞという一大決心の後押しをしてくれました。

自分がいよいよ衰えてきているなと感じ始め、今までは〈そのうち機が熟したら本を書けばいいさ〉と放っておいた“企画”でしたが、発症から１ヵ月ほど経ち痛みが和らぎ出したころから俄然執筆し始め、令和元年の年末から年始にかけて草稿（Ａ５版で280ページほど）は大体でき上がり、どこで出版してもらおうかと考え始めた矢先のCOVID-19でした。函館市から外には一切出られなくなり（渡島・檜山管内くらいは外出できても、このあたりに“医学書”を出してくれそうな出版社はなく）、出身校の出版会に当たってみたものの〈一般的な考えではなく、大学の教科書として使用できる内容ではありません〉と体よく断られました。

身内に読んでもらうと好評で（身内としては当然の反応ですが）、それだけでほぼ満足し、〈自分にもしものことがあれば、草稿はあるのだからきっと誰かが“遺稿”として出版してくれるだろう。それとも自分が死んだら皆これ幸いと忘れ去ってしまうのか〉などと妄想を膨らませ、〈ついでに遺言書も執筆して、遺稿の出版を頼もうか〉などとも考えました。しかし、結局は〈ここまでできあがったのだから、自分でやらなきゃダメだよな〉という当たり前の結論に、ほどなく達しました。

精神疾患や病的体験などの精神症状がなぜ生じるのかなど、精神疾患の本質に迫る画期的な、パラダイムシフトをめざした本です。もし出版されることがあれば、ぜひお読みいただきたいな、と思います。